

# 学思

81

2025年1月～3月

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

## 目次

●センター長のコラム	2
●活動報告	3
・JSPS中国同窓会黒龍江支部会	
・JSPS中国同窓会劉山虎会長が在中国日本国大使館を表敬訪問	
・日韓研究者交流協会（JSPS韓国同窓会）2025年冬季日韓共同シンポジウム	
・2024年度第2回在中国日本人研究者ネットワークさるん	
●活動記録（2025年1月～3月）	5
●編集後記	5
●離任の挨拶～国際協力員 杉浦南美	6



JSPS BEIJING  
OFFICE

## 財団法人から特殊法人へ

私が日本学術振興会（学振）に就職した1987年は、学振が日本学術振興会法の制定により特殊法人として発足してから20周年にあたる年でした。ノーベル賞受賞者の利根川進博士をお招きして記念講演会が開催されたのを今でも覚えております。当時の予算は約53億円、職員定員は47名であり、事業規模約3000億円を誇る今日の学振と比べると実にささやかな組織ではありました。しかし、国際交流のための事業が飛躍的に拡大している時期もあり、組織には日本の国際学術交流を担っていこうという勢いがありました。

1932年に財団法人として設立された学振は、日本において初となる本格的な研究費補助事業を開始することにより、日本の研究水準の向上に貢献していくこととなります。それが1945年の敗戦による戦時の科学動員体制の解体に伴い、私的性を有する学術奨励団体として位置づけられることとなりました。それにより国からの研究補助金も打ち切られております。しかし、それで国家的な学術振興機関の必要性がなくなるものではなく、学振を特殊法人化して国の施策を担えるようにすることが学術関係者の悲願となつたのでした。その後糸余曲折はありましたが、文部省や学術界などの関係者の熱意や努力が実り、1967年に特殊法人日本学術振興会が誕生することとなつたのでした。

なお、特殊法人化に先立つ1961年に池田首相とケネディ大統領による日米首脳会談が開かれており、その共同声明に基づいて日米科学協力事業が開始されることとなります。その実施機関とされたのが米国科学財団(NSF)と学振でした。私的法人であった学振が米国連邦政府機関であるNSFのパートナーに指名されたことで、学振の国際的ステータスは大いに高められることとなり、特殊法人化に向けての追い風となつたと言われています。

学振には、財団法人として設立された1932年、特殊法人化された1967年、そして独立行政法人化された2003年と、いくつかの節目の年があり、設立100周年となる記念すべき2032年もそれほど遠い未来ではなくなってきました。しかし、独立行政法人となった今日、さすがに特殊法人化した1967年を記念して何かをしようという雰囲気は見当たりません。ただ、学振の創立記念日は、今でも東京法務局日本橋出張所において特殊法人として設立登記された9月21日とされており、こんなところに特殊法人時代の名残をとどめています。

センター長 山口英幸

## JSPS中国同窓会黒龍江支部会

2025年1月19日（日）黒龍江省ハルビン市において、JSPS中国同窓会黒龍江支部シンポジウム「Next Generation Advanced Functional Materials and Intelligent Devices」及びJSPS事業説明会を開催しました。JSPS中国同窓会シンポジウムは、例年、JSPS中国同窓会会員からの申請を受けて開催しているイベントであり、今回は、ハルビン工業大学の胡平安教授がコーディネーターを務めました。会場には、研究者や学生・留学生約100名が集いました。

シンポジウムの冒頭では、ハルビン工業大学の帥永副学長、当センターの山口英幸センター長より祝辞が述べられ、続いて杉浦南国際協力員がJSPSの実施している主要な国際交流事業に



会場の様子



集合写真

について説明を行いました。その後、中国科学院院士である中国科学院化学研究所の劉云圻研究員を始めとする約20名の研究者による講演が行われました。講演を行った研究者のうち、7名の研究者が日本での研究経験があり、日中学术交流の強い繋がりを再認識しました。劉云圻研究員も理化学研究所と東京工業大学で研究をされた経験があります。

シンポジウム終了後には、希望者でハルビン冰雪祭り（ハルビン冰雪大世界）を訪れ、氷と雪で作られた彫刻がライトアップされた幻想的な世界を味

わうとともに、ハルビンの氷点下の厳しい寒さを体験しました（この日は氷点下19度でした）。

2024年度、JSPS中国同窓会では総会1回（湖北省恩施市）、支部会3回（重慶市、陝西省西安市、黒龍江省ハルビン市）、JSPS事業説明会3回（北京市、湖北省恩施市、広東省珠海市）を開催しました。JSPS北京研究連絡センターでは、2025年度も引き続きJSPS中国同窓会シンポジウムを含む各種イベント活動を通して、多くの中国の研究者に日本との学術・研究交流を選択してもらえるよう働き掛けていきます。

## JSPS中国同窓会劉山虎同窓会長が在中国日本国大使館を表敬訪問

2025年1月14日（火）、JSPS中国同窓会の劉山虎同窓会長がJSPS北京研究連絡センター職員に伴われて在中国日本国大使館を表敬訪問しました。

在中国日本国大使館の山田欣幸経済部長（公使）と築田栄輝一等書記官（科学技術）との懇談の席が設けられ、劉会長による同窓会の活動内容やご自身の日本での研究経験についての紹介に

続き、今後の日中両国の持続的な技術・文化協力と友好交流について意見が交わされました。

劉会長は2024年11月からJSPS中国同窓会会長を務めており、同窓会活動をより活発にするべく意欲的に取り組んでくださっています。大使館のご支援の下、JSPS中国同窓会がより一層発展し深化することが期待されます。



左から2番目より築田一等書記官、山田経済部長、劉同窓会長、山口センター長

## 日韓研究者交流協会(JSPS韓国同窓会)2025年冬季 日韓共同シンポジウム

2025年2月14日(金)、韓国・ソウル市の建国大学において、2025年冬季韓日共同シンポジウム「低炭素畜産技術動向および政策方案」を開催しました。共催機関は韓国畜産経営学会であり、研究者・学生等約60名が参加しました。

開会式では、本シンポジウムのコーディネーターである建国大学のヨン・ギュヨン教授(JSPS韓国同窓会員、韓国畜産経営学会長)より歓迎の挨拶、JSPS韓国同窓会長である延世大学のキム・テクジョン教授より開会の挨拶があり、続いて建国大学のキム・ミンギョン常虚生命科学大学長、在大韓民国日本国大使館の田村哲之一等書記官、当センターの今城佳奈子副センター長より祝辞が述べられました。

その後、当センターの杉浦南美国際協

力員より、JSPSの概要と韓国と関係のある主要な国際交流事業について紹介がありました。講演のセッションでは、日本からの研究者2名(帯広畜産大学の仙北谷康教授、東北大学の盧尚建教授)、韓国の研究者1名(国立農村振興庁畜産科学院のイ・ソンデ研究官)による日本・韓国や世界の低炭素畜産技術動向に関する講演が行われました。終盤では、JSPS韓国同窓会のクォン・ジュンギ副会長を含めた5名の研究者による、「低炭素畜産を進めていくにはどうするべきか」をテーマとしたパネルディスカッションが行われ、専門分野の異なる視点から意見を

交換しました。

2025年は、日韓国交正常化60周年という節目の年です。JSPS北京研究連絡センターでは、これからも韓国の研究者の方々がJSPSの各種国際事業採用期間が終了した後も日本との学術・研究交流を継続していくことができるよう、JSPS韓国同窓会シンポジウムを含む各種同窓会活動への支援を続けてまいります。



登壇者による集合写真

## 2024年度第2回在中国日本人研究者ネットワークさろん

2025年3月7日(金)、中国国内の大学その他の公的研究機関で研究に従事している日本人研究者を中心とした「在中国日本人研究者ネットワーク」の会合である「在中国日本人研究者ネットワークさろん」を北京航空航天大学柏彦大厦にて開催しました。

今回は、北京航空航天大学物理学院の谷畠勇夫教授、梶野敏貴教授がコーディネーターを務めました。さろんの開催は昨年12月に引き続き今年度2回目で、中国で活躍する研究者をはじめ、科学技術関係の仕事に従事している方を含め、15名が参加しました。さろんでは、

谷畠勇夫教授から「中国の研究グループと働くこと」について、続いて梶野敏貴教授から、「東洋から世界と宇宙を観る」をテーマに自身の経験や研究経験等をお話いただいた後に、参加者からの自己紹介、近況報告が行

われました。特に中国に赴任されてからの苦労話や学生指導の話は参加者間で共感を得るところが多く、その後のフリーディスカッションでは盛んに意見交換が行われました。終了後、参加者から「異なる分野間の日本人研究者同士で意見交換ができる有意義であった」等の回答が多く寄せられました。

JSPS北京研究連絡センターでは、来年度も中国で活躍する日本人研究者や科学技術関係の仕事に従事している方々のネットワークの構築・拡大のために様々なイベントを計画していますので、是非ご参加ください。

<https://www.jsps.org.cn/jspsbj/site/rbxz/rbxzjp.htm>



集合写真

## 1月

6日 神戸大学中澤教授一行来訪、JSPS 中国同窓会員趙宝華教授来訪  
 7日 電子科技大学胡俊学長一行来訪  
 10日 在中国日本国大使館新年賀詞交換会参加  
 14日 JSPS 中国同窓会長劉山虎教授在中国日本国大使館表敬訪問、中国 Bridge 事業審査会開催  
 18日～19日 JSPS 中国同窓会黒龍江支部会開催  
 21日 中日交流フォーラム一行来訪  
 22日 広報文化十一者会出席、希平会員との懇談会  
 23日 日本商会会合出席  
 24日 韓国 Bridge 事業審査会開催

## 2月

11日 広報文化十一者会新年会出席  
 14～15日 JSPS 韓国同窓会シンポジウム開催  
 17日 大学改革支援・学位授与機構一行来訪  
 19日 北京日本俱楽部セミナー参加  
 25日 天皇誕生日祝賀レセプション出席  
 27日 広報文化十一者会出席、日本商会会合出席

## 3月

7日 在中国日本人研究者ネットワークさろん開催  
 9日 「一期一会」日中交流会出席  
 10日 HOPE ミーティング出席、創価大学北京事務所一行来訪  
 12日 JSPS 本部訪問、JST 研究セキュリティシンポジウム参加  
 13日 JETRO セミナー参加  
 18日 広報文化十一者会出席  
 20日 希平会関係者来訪  
 26日 杉浦南美國際協力員送別会  
 27日 日本商会会合出席  
 28日 中閏村フォーラム出席  
 29日 北京林業大学中日交流会参加  
 31日 國際協力員帰任報告会

## 編集後記

中国同窓会設立後、初めて黒龍江省ハルビンで同窓会イベントが行われました。コーディネーターに立候補してくださった胡平安先生には大変感謝しております。北京センターでは引き続き、同窓会員数の大小や遠方・近隣に関わらず、熱意のある先生とともにイベントを開催していきます。

そういえば、私は韓国ではすぐに日本人だとバレたのに、中国では何度も現地人に間違われていて、道を尋ねられます。また中国文化は西洋文化ほどのギャップもなく親しみを感じる一方で、全く異なる行動や習慣があって戸惑うこともあります。

ただ、この似ているのに異なるところを感じることができるのが駐在の醍醐味だと気づきました。

さて、北京ではモクレンや桃、海棠の花が見頃を迎え、春光麗らかな季節になりました。北京センターは4月から3名体制でスタートします。2025年度もよろしくお願いします。皆さんにとって、新しい環境が穏やかで、実りあるものとなりますように。(ちなみに中国の国花が何か気になります。)



「海棠花溪」でお花見会 調べたところ、非公式ですが牡丹だそうです。日本は桜と菊です。)



副センター長 今城佳奈子

## 離任の挨拶

着任のあいさつを書いたのが昨日のことのように思われますが、あっという間に帰任のあいさつを書く時期となってしまいました。

北京研究連絡センターでの研修期間中、JSPS 中国同窓会や日中の大学、政府系機関の方とご一緒させていただくたびに、まさに今「日本と中国の学術交流は今後どうしていくべきか」の岐路に立たされると強く実感することが多くありました。この問い合わせに対し 1 年という短い期間と私の経験値不足ではなかなか良い回答ができそうにはありませんが（プロフェッショナルの皆様でも難しいのかもしれません）、どのような状況下においてもこれまでの先人の方々が築いてきた学術交流のネットワークを絶やすことなく次の世代へしっかりと引き継いでいくとともに、新たな交流の芽生えが生まれていくよう最善を尽くしていくことが、われわれ学術交流に携わる者には求められているのではないかという答えらしいものを見つけることができたように思います。

また、2023 年度北京研究連絡センターで事務局を担当することとなった JSPS 韓国同窓会の活動を通じて日韓の学術交流の現状に触れることができました。北京を

ベースとしながらも、学生時代より文化や社会に関心を抱いてきた韓国において仕事をする機会に恵まれたことは幸運以外の何物でもなく、個人的に感無量でした。

日常生活においては、現地職員の余さん、江さんのご指導のもと、中国現地での生活に溶け込むことができたと感じています。お二人をはじめ、外卖やミニプログラムへは感謝の気持ちでいっぱいです。（ぜひ日本進出を！）

4 月からは、福岡にある九州大学に戻り、留学生の受け入れ支援を担当することになりました。この 2 年間で得た知識や経験を生かし、微力ながら九州大学に入学した留学生のサポートに尽力していく所存です。九州大学に在籍する留学生の半分以上が中国人留学生ということで、これからも中国とのご縁は続いていきそうです。

最後になりますが、さまざまな挑戦の機会を与えてくださった北京研究連絡センターの山口センター長、今城副センター長、金子前副センター長、余さん、江さんに深くお礼申し上げるとともに、研修期間中にお世話になりました全ての皆様に感謝申し上げます。

国際協力員 杉浦南美

追伸：新たな「推し（パンダ）」もでき、プライベートでも中国に行く機会が増えそうです。



香香



福宝



星星・辰辰



紳宾惠



牧野

日本学術振興会 北京研究連絡センター  
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING OFFICE

北京市海淀区西三環北路 89 号 中国外文大厦 A 座 404 室  
Tel: +86-10-8882-4331 Fax: +86-10-8882-4332  
E-mail: beijing@jfps.org.cn URL: www.jfps.org.cn



WeChat